

青嶺

Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

体育大会まで残り…

二つの分団で連日体育大会に向けての取組が、三年生を中心に熱心に行われています。

この仲間たちで協力できるのは一生に一回、悔いを残さないようにと激励の言葉で伝えました。

残りの期間が短くなるにつれ、さすがに体力面でも精神面でも疲労が蓄積しているようです。「成功する」に越したことはありませんが、「やりきる」ことに大きな意味があると思います。様々な考えの人たちが一つの目標に向かって、様々な壁を乗り越えようと努力する、最後の最後まであきらめない。そこからきつと何かを学べるはずで

す。二十一日日曜日は輝く子供たちの姿を楽しみにしています。

「生徒と共に…」 大会を支える職員たち

青や黄の色の入ったウェアを身にまとい、生徒たちの自主性を尊重し、ある時は引張り、またある時は我慢強く支えながら生徒と共に活動している先生たちの姿を見ると、生徒と一体化していて微笑ましくも、羨ましくなります。

また、教職員全員がそれぞれの役割を全うし、気づいた人がサポートし合って体育大会に向けて準備をしています。

教職員の、気づいて助け合う協力的な雰囲気や、感謝する気持ちを忘れないことなど、チームとしてのまとまりはきつと生徒たちにも伝わっていることでしょう。笑顔が絶えない大人たちに囲まれて生活する生徒たちはきつと安心して毎日を過ごし、のびのびと頑張れることでしょう。学級は安心して自分らしく過ごせる「ホームルーム」。学校は大きな「家族」ですね。



ある日の 生徒たちの会話

青嶺中学校の「職員室」はオープンスペースになっていて、壁がなく授業で移動する生徒たちが気持ちのよい挨拶をしてくれます。

また、放送の設備がありますので、生徒たちは「職員室」で教務センターの中で、放送の仕事をしています。ある日、三年生たちが下級生に係の仕事である放送の仕方や、内容について教えている会話が聞こえてきました…

三年生「ここが原稿を入れる所で、この紙を見て放送して下さい。」
「水曜日だけは内容が違うから気を付けて！」
下級生「はい！」（と言いつつも若干不安そう…）

三年生「大丈夫！三年生も頑張るから！」（ガッツポーズ付きで）
下級生（小声で）それなら安心だよね！（とホッとした表情）

生徒たちは何気なく、普段通りに会話していたかもしれません。だが、その中に優しい思いやりが自然に見られ、すごく温かい気持ちになりました。

この青嶺中学校の「過ごしやすい」「安心感」を醸し出す柔らかな雰囲気は、こうやって脈々と受け継がれているようです。教頭先生と二人、生徒たちが教室に戻った後で、しみじみと語り合いました。

子育て雑感

当たり前のことですが、子どもは親とは別の人格です。と、頭では分かっているもののなかなか実感がわかないのもまた事実でしょう。感じ方や考え方が全く違い、いや違いすぎて頭を抱えたり、意外な一面がそっくりだったり…

自分自身を振り返ってその思いを強くします。私は二人の子供の親ですが、それぞれ就職し自分の道を歩んでいきます。その過程で子供から教えられることが無数にあります。そして自身の人生をもう一度たどっていくような不思議な感覚を覚えました。

自分と子供は違う、子供と子供も違う。「違っていて当たり前」に気づくまでずいぶん力んだ子育てをしてきたようですね。反省しきりです。二人はそれぞれ全く違う道に進みましたが、これから一人の大人として接していきたいと思えます。

生徒たちを見ていてそれぞれに個性豊かで素敵な子供たちです。みんなが自分らしく自分の人生を力強く歩んで行ってほしいと、生活をともにしながらいつも願っています。

校長室より

職員室に比べると、やや奥まったところにある校長室。一人で過ごすには広すぎて、かえってソワソワしてしまいます。

ただ、出入り口が二つあり、職員室側からは、教務センター付近を行き来する生徒たちや先方の姿が伺えます。もう一方の多目的ホール側のドアを開けておくと、主に一・二年の生徒たちが元気に移動する姿や声が聞こえます。そして、そこから校長室をチラッと覗いて元気に挨拶をしてくれます。

下校する時にも、「校長先生、さようなら！」と声をかけてくれます。私も「さようなら、また明日ね！」と返します。すれ違う時、朝の登校する時、相手の顔を見て声をかけ、頭を少し下げる。それだけのことですが、心がほわっと温かくなりとても嬉しくなります。

学校での言葉のやり取りは私が耳にするなかでは、刺々しさがなく温かい、思いやりのある柔らかいものです。「言葉」の力はすごいものです。人を傷つけるのも、また勇気づけ元気にするものも言葉なのですね。生徒や先生方からの「言葉」から勇気や元気をもらい、今日も一日が過ぎていきました。感謝感謝です。